



# おとひめ



山口キャラクター  
「おとちゃん」と「かめはかせ」

令和4年9月21日(水)

## 運動会を子どもの主体性を伸ばすチャンスに

山口小学校長 加藤 美香

9月初旬、実行委員4名が、運動会のスローガン「自分でつくる運動会～楽しく・協力・最後まで～」について説明しようと校長室に来ました。「仲間と」でも「自分たちで」でもなく、「自分で」という言葉を全面に出した実行委員。話を聞くと、「だれかにやってもらうのではなくて、一人一人が運動会の主役になってほしい。」という願いから生まれた言葉でした。さらに話を聞くと、個々が頑張ればよいということではなく、個々の頑張りをみんなの力につなげることで全員がやってよかったと思える運動会をつくりたいと願っていることがわかりました。大きな学校では埋もれがちな「個」に焦点をあて、山口ならではの運動会にしようとしている実行委員。頼もしくうれしく感じます。

子どもたちは、運動会の取組の中で、「係の仕事を最後までやりきる。」「もっと大きな声で応援するぞ。」「速く走れるようになりたい。」「うまく踊れるように頑張りたい。」と毎日練習を頑張っています。自分と葛藤しながら、本気になって挑もうとしている姿もあります。

当日のプログラムは、「徒競走」「演技」「リレー」「学年種目」「応援合戦」とシンプルですが、どれも偶然ではうまくいかず、今までの練習の成果が試される種目です。子どもたちは練習した分だけ、速く走れたり、うまく踊れたりします。もちろん練習しても全員が一等賞のゴールテープを切れるわけではありませんし、踊りをまちがえてしまうことだってあります。「やったあ、うれしい」という気持ちと同じくらい「くやしい、思うようにいかない、涙が出る」という気持ちも成長には大事なものです。私は、成功と挫折を子どものうちにいっぱい味わい、感情を揺れ動かし、たくましい子になってほしいと考えています。特に最高学年である6年生は、自分の力を出し切り、中学校生活への自信につなげて欲しいと思います。

保護者の皆様には、運動会当日、お子さんと一緒に思い切り喜んだり、思い切りくやしがりしていただきたい、そして最後には「〇〇ができるようになったね、よく頑張ったよ。」と認め励ましていただきたいと思えます。担任をはじめ、学校の職員も、子どもの精一杯を応援し、輝く姿に拍手を送ります。運動会が子ども一人一人の主体性を伸ばすチャンスの場になるよう、家庭と学校が一緒になって応援していきましょう。

山口小42名の子どもたちに温かいエールをどうぞよろしくお願いたします。